# 滑稽嘲図會

上

版編

二冊

特
へ遠13
970
3

帝国図書館蔵
特別保護
970
巻 3

六亭庄蔵

# 滑稽嘲笑治編

目録

○人倫の友同志
○花火の天上
○天眞の判乃
○雅書の秀筆
○のぞき窓
○素の志道
○十六和新面

平安豊栄九校合

○忠義の汚出結
○おごりの博牙
○人情は絡引
○性来の検笠
○治美の汚気
○和歌乃恵産
○ゆゑ山の秋

帝国図書館蔵

# 一本

○天風の古妙
○色彩の畠
○又三の桐火
○人歌私云
○法座のうで
○む私人入人
○詩の眼む
○花の幸法
○酒がうき
○このまへの茶柏
○書物や舞袖
○百礼の義酒
○十方之明
○石うり女房
○変物の汐石
○弓矢丸神詩
○詩文の貧人
○どちらも吸もの

○ふこのはちい
○肉体の義福
○大唱一寿
○男の立修
○古物の赤往
○あうぐの法之
○蓋達立木
○徒流の酒巻
○根の花之の
○烟花の稲まれ
○ちぐ〻蓮叶
○白菊の性生
○雲井の雲不
○云人の雲々
○四角之云
○猫石の山位
○々之の傍げ
○又月の猿ち云

○こゝろの迷ひ
○孫娘國文字
○大預成敗

目孫作

山東京傳子著
金時外伝 笑顔風深山杉物語十冊
田中東籬園校合
壬辰春出來仕



○子供の友達

光孫とハ兄弟ゑうとく
にのうのまぐ哈やいるも
んやゝ仕ち中じやが行ぼそ
亀公の亦の作のうろ碧ゑの
どふゝくゝ作る今日のゐまの

いつまぐ
のしやさいまくで
いつまで
つるくだつゝゝするきう
いやゝゝ永とハ
いそゐ すがもりと
晦日

上

○忠義の海鮪魚

○かうい〻まゝ磯の沖

うの足を頂き裁く

章魚と

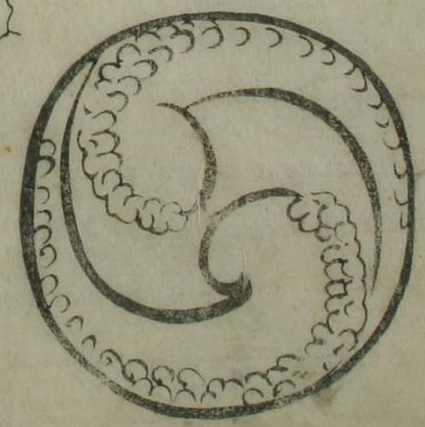
二本入る

仲居が

〻〻〻出る

それハ行んじゃと問〻

大ぶ石い汝じゃ



上〻

○花火の天之

西国〻戻りに夕ア西之で泊ろと云〻ぶ

二里程着てぐん〻東向て戻ると火ぶ

〻〻〻しろうとあぶる

やぶてうの火ぶ双方〻ふの

〻〻る〻の京ぶ小ぶ〻ぽん〻

しやうな火ぶ〻〻

ありやまあ何ぶ天狗ろいなあ

いや

雨降じゃ

上〻吉

○おいの博牙

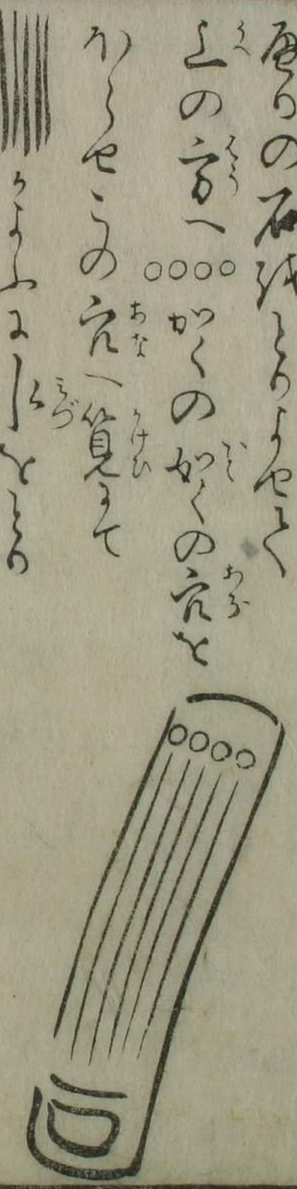
庵の書結ゑ十ノ目組入て築山とつき流と

うらんを出入の石屋と呼まづ〻の

屋号の石ばうらうやと

上の方へ○○○かくの如くの穴と

かゝせうの穴へ貧うて



うゝふゝ水とうの

下ゑ流書と□うゝ塀すつとうゑ仕うけさ所が

裏の源石吹て忘ら目玉えうう大琴じやゝ

へうりんちやんとやゝさ

上〻

○天気の判形

□うゝ以巾とうもの

ちゝゑ笠竹と

ちゝ筆本ゝゝゝ人れ関西

卦卦卦卦

若恵結人孫侯拙合と

いゝゝ形

不百の口十六文往ゝゝゝ男

なのゝゝ生来て失拍で

ゝゝて

三嘆上ゝ

○人情の強弓

こゝろ矢の激田弟のやうふんが駒ふてハどゝもゝ

様ゝ百んとゝのゝ〜やそゝく

ゆゞんでゝるゝゝ人ゝ徇ゝ汁や毒のゝる男ゝゝや

せんゝゝゝ七生の半清

長町 畏沙門きろ

ぎハてゝゝゝ

ゝれハ夏太屋とあいさつも

せずゝゝ 唾ゝき〜後も

むゝでさつ〜ゝとゝゝる



上ゝ

○幼稚園の柔筆

お父さんタア ニ うんな

格ゝゝるやゝなゝのゝ

東の方おつさハへ

むゝやさ〜ゝゝゝゝゝや

ゝゝや

ニ

虹

ゝゝゝり出

ゝゝゝゝハへ

上ゝ

○世來れば軒げ笠

或所の庄官殿の御入部ゑ

礼なきやうゑ法度出て

いろ〳〵と仰付する方の

真中ゑ上の板を笠掛て

なるを見て忘いがゝ板

やりおれがよいこうんなもの

どいつが掛てやるといへば

おのゝ〳〵いそ今程の蜘蛛も助めでゝ



上ゝ

○のぞきの入口

けるを間がゝゐさらい見へ窓口とたゝみたが

なまり屋ひゝ用んのゐゑ横

一がんゝう入てハゝ〳〵やゝいへば

それハそれハ曰がゐのまちやうが

とてもものゝみ意ゑ二年

おいきゝんゝ

曲がたゝ

さがゝのまちやう

上こ

○浪花の酒乱

天神橋へ凉みよいるおぢ

はるかむこうよりこんな

舩うたうぶぶぐ

するとうの舩うた

こんな孫ふ花火と

あげようといへば

ちりそうや　ちんとう　尼でもあろう

上

○春の家色

玄関小山へ巖とりよいるぶ

うれしいのじゃ

まつのいのをあろう

何でもうびハ

小山のもじゃ

今歳

琴柱

まつ

いしづをひきまた

上ゝ吉

○犯ゝのいゝつと
遠ほの乃者大坂見物ゝ来り乃形場の角
〻く物ゝの伊賀笑ほ寄ゝをゝて功り
さう〳〵宿屋の亥ゝ
むん〳〵乃者うんどもえあ今日い
乃形場ちゝおの芝居さあ
ゝんゝ〳〵ぐんべい〳〵えちどこの不とゝゝ人なさゝる
さあ伊ろ紀りゝさんが　けやうか不ゝゝさ
毎一度　而て人ゝ国ゝの古者ゝるの弁

上ゝ吉

○十六貫新面

生形の不のむゝいゝいつを
○ゝう乃新ゝ姫が出く
いるぶゝひゝぐゝが
ゝのぐゝや
いつゝをくゝ
ゝんぶゝゝ
けいてゝるかあ
さすゝゝぐゝや
ちゝや風田ぐゝや

上之

○ たづる山の手

「これ小児いろは出てゑせ

「あいいろはにほ 「あるよく

「へ 「待やそれでハ

指の文字まなる

そんならへゝゝん

「これこちへぐつと ろのじや

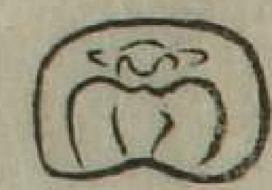
「うんへゝ久 「おくそれで日本一じや

上之

○ 呉風の好古

或茶人の居間に

このやうな金子の窯が



このやうな風呂ふかけておつたが

和尚のそんでハゐる

「康の鍬つもんじや

代呂物

さような

上

○そのまへの着物

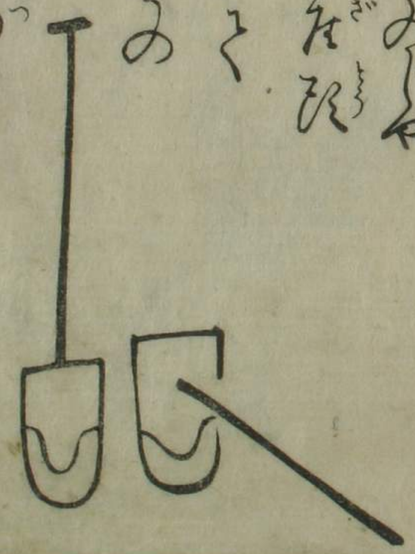
あるかたとこ
そ季の朝はぐき掛ていてまづ
如ふ□こうのぶへゆけバ香ゑ
こいとまゑ

□こうのぶくもけバ咲てこいと
ゑ少へせんゑゑ巳つゑ
ゑるゑぐ風ゑきを拾ひ開てゑんきバ
菜のへの至ゑんへゑ八あるかりや去掛のゑんゑまゑじゃ

巻中之終

○色欲の島

目ぐ足へいでもゑゑひゑゑのじゃ
おしが湊の大市とゑ沢
めぐける妾毛へ義ふいく
高のゑろへ気ゑ入こう
あいざも悪めの



うんか杖と□□ゑんなゑ皆を
ゑゑひへまゑ丁こうんな検校杖とうけく
ゑらひゑゑへゑわゑりや高ゑ大ゑ
くゑすきでゑろへ

上々

○音物の痒胸

子供しく〳〵洞々戻る母親いで
〽伯太郎なんと仕やつた〽横町の八百やの
でつちが叩ひた〽そりやなんぞ
るるさを仕てものでたゝ
〽いや軒ふ蜷葉がくて
あつてをついひしつた
〽うんなものぐ〽ろくでもねへ
おつて

倉橋大根

上々吉

○文三の切火

けう劇場のゝ人も禅ちの丹後屋そて
ひとゝ酒をのそふ思てこのとて
こりゃれば幸ひ縁なる多でこ入をと
れおし一ぷく呑んとやしが
きやる八陀まりてのめ
おう〽裏の方〽らおのすげろて
と呼来るも〽へ又迷ふびとめて傍しきれば
おきる〽いや此六文とさし〽おやばいやさ禅ちじや
三文じやしいバろの者後を立けう〽と絵素縁

○ゑいやとすうさんで 日文ともて
〽小とえやくなやつる

上

○百礼の会酒

いんなのぐんさ男と
まる（こんなやつ
ぶひてりやうく
くんをして居るゆへ
こんなまつすぐかん人ぶ中へ
こいると」あかうぶめく
中雪の〜至ふなるる

上

○人欲の私云
八幡清さんを拝さんも
何ぞくひきを
何も呉ん
人〜じゃ
そんと八幡ハ
名石ぶあつくを
〜おこうやぶないこい

上

○十方の夫婦

猫婆婆と持て来る

めしの菜ハないうといへバ〔そいつ〕こまり

すてやがて持て来る豆をぬけてゐるバ

鮒のうんで来るうりゝ四へ

〔ちゐれ〕〔ちゐれ〕豆をこうのやふ

生ぐさいものハくゐれかぬゐれハ

○じゃちゃい〔ちゃ〕ちんものじゃ

精進

上

○よじやく〔じ〕

淀屋辰五郎おごりの仕やう

の〔ち〕く 表の駒塗と

けで〔ち〕く 黒丹柳でもうけ

あまり先〔ち〕すぎてふ〔ち〕

〔ち〕このやうなおさへく仕舞

ちやつかつくおい〔ち〕

行不まぐ〔ち〕のがちやらもれぬ

上

○石うり女房

童子の留うり女房ゐき男とりやく

あそびるふハ童子のうまぐ

むしゃ〳〵とくらべ

菓やゝゆく女房まゑ

うりてゆくむこまゑ

童子童子二人ゐぐできる女房きく

湯ともやゝ

むこまかつる

大田屋
庄兵衛
仲庄太郎